

## 世界俳句とJim Kacianの業績

リチャード・ギルバート



俳句が作られている国の数や言語の数、さらには一年間の出版数の多さから考えると、俳句は間違いなく現代において世界的に最も人気のある詩形である。これは情報工学の進歩の賜で、この詩形によって共通の美と形式への意識に基づいた国際的な文学共同体の出現の可能性が生まれた。つまり、俳句そのものの強力な土台は、本来は日本の土壌からではあるが、言語、文化、歴史の違いを越えて、他へと広がる驚くべき力を示している。この意味では、俳句は私たちの時代精神と大いに一致しているように思える。

しかし、最近では文学そのものは本来地方芸術的な形式で、その土地にあってこそ最もよく育まれるものである、と言われることがある。この発言は有名なバルカン出身の俳人で出版者でもあるDimitar Anakievのものだが、現在の世界俳句の状況に対する問題提起でもある。"the global haiku" (世界俳句) の"the"は統合、あるいは一体となった文学のジャンルの存在を示唆している。「世界俳句」という表現がますます頻繁に、しかも漠然と使われるようになるにつれ、Anakievの発言は別の問題を引き起こす。その問題とは、「世界俳句」という概念は受け入れられないのか、あるいは、そもそもそのような概念はあり得るのだろうか、ということである。この問題は、世界の芸術形式としての俳句を広めるために現在結成、あるいは再結成されようとしている俳句組織にとっては特に重要な問題である。

では、世界俳句あるいは世界俳句運動の未来像とは何か？世界俳句共同体は創設されるだろうか？俳句は世界的なジャンルとして国際的な文学共同体の共通基盤となり

うるのか？あるいは、「世界俳句」という表現は一種の矛盾語法なのか？これらの問題は理論的あるいは学問的に解明されるかも知れないが、今のところ何とも言えない。しかし、現実には革新的な動きがすでに起こっているのである。この点に関しては、特にアメリカ人の俳人で、編集者兼出版者であるJim Kacianの業績と活動に触れてみたい。Kacianは、2002年11月にカリフォルニアのロングビーチで開催された環太平洋俳句大会（「国境のない俳句」がテーマ）で「さっと世界一巡り」と題した基調講演を行っている。この講演（近々印刷出版予定）は、2000年に始まった「俳句という名の世界旅行」（引用はKacianの講演から）<sup>1)</sup>と銘打ったユニークな俳句巡礼に関するもので、その内容は様々な国際俳句大会、ワークショップ、テレビ取材、そして世界各地の支部設立への招待などである。

Jim Kacianはいくつもの肩書きを持っている。まず最初に、彼は著名な詩人であり、20以上の国々で発行されている英語の機関誌や雑誌でこれまで100以上の俳句を発表してきた。最近では、2002年に、権威あるJames Hackett賞を受賞している。1997年、Kacianは国際俳句交流協会（日本）とアメリカ俳句協会の共催による記念すべき大会に参加するため初来日した。その際、東京にある俳句文学館を訪問したが、そこで佐藤和夫氏（早稲田大学名誉教授）より1996年Mainichi Daily News（毎日新聞社の英字

新聞) 英語俳句の優秀賞を授与された。受賞したのは次の俳句である。

steamy night  
fireflies 蒸し暑い夜 螢は 雨の中  
out in the rain

次の俳句はKacianの代表的な俳句で、革新的な彼のスタイルは他の国々の俳人たちに強い影響を与えた。

the river  
the river makes 川となる 月の川  
of the moon

上記の俳句は彼の俳句集*Six Directions* (1996) で発表され、1997年の『第1回毎日俳句大賞作品集』(毎日新聞社)にも掲載された。この俳句は、これまでブルガリア語、ドイツ語、フランス語、アイルランド語、日本語、ルーマニア語、トルコ語、セルビア語に訳され、北米や他の国々から出版される俳句選集に収められることが多い。

1997年、Kacianは*Frogpond: Journal of the Haiku Society of America* (『蛙池：米国俳句協会誌』)の編集者となり、現在もその任にあたっている。また、俳句と俳句関連の書物のみを扱う出版社としては、世界最大のRed Moon Press (朱月出版社)の創立者兼オーナーでもある。同社から出版された*The Red Moon Anthologies of English-Language Haiku* (『英語俳句朱月選集』)シリーズは選句の質の高さと現在の俳句の動向を反映していることから、英語俳句運動に影響を与え続けている<sup>2)</sup>。

Kacianの旅はロンドンとオックスフォードで開かれた世界俳句フェスティバル<sup>3)</sup>から始まった。この旅は、彼の講演から引用すると、「世界最短詩である俳句は異国的な温室以上のものになり世界文学の仲間入

りをすることができるだろうか？」という問題提起でもあった。20余りの国々から訪れた著名な参加者たちはこの問題を議論した。さらにスロベニアのTolminで開催された「世界俳句大会」には数カ国からの参加があった。その時の主な参加者は、Zoran Doderovic (セルビア)、Dimitar Anakiev (スロベニア)、Zinoviy Vayman (ロシア)、Alain Kervern (ブルターニュ)、夏石番矢<sup>4)</sup>(日本)、Ion Codrescu (ルーマニア)であった。この大会ではJim Kacian、Dimitar Anakiev、夏石番矢が設立運営委員となって「世界俳句協会」(WHA)を設立した<sup>5)</sup>。

その後、WHAはさらに発展をとげ、ボランティアによる膨大な作業の結果、国際的なウェブサイトを立て上げた。これはKacianが最初に提唱した次の言葉に端を発する。「そこではすべての会員が作品を発表出来るような... (中略)...大規模ではあるが、通常は編集されていないような他のサイトとは違って... (中略)...世界各地にある支部の編集者が、俳句が国際的になっても、句が作られたそれぞれの土地の代表的な作品を選べるようにして、地域性と特殊性が失われないようにする。」WHAのウェブサイトは今後さらに改良の余地はあるものの<sup>6)</sup>、現在様々な国々からWHAの趣旨に沿って英語以外の言語によって書かれた俳句も掲載されている<sup>7)</sup>。

次に、KacianはスロベニアのVilenica Caveへ移り、国際文学フェスティバルの年次大会がその洞窟で開催された。詩の朗読に先立ち主催者は「10年ほど前にVilenicaで俳句を詠んだ最も最近のアメリカ人はAllen Ginsbergでした」と挨拶して、その後Kacianの功績にふれた。事実、Kacianの経営するRed Moon Pressのユニークな業績のひとつは、バルカン俳句を英訳し、現代に息づくその様式を北米や他の国々の読者に紹介し、バルカン俳句の発展に寄与した

ことである。その功績もあって、Kacianは賞賛をもって暖かく迎えられたのである<sup>8)</sup>。スコプリュでは、詩は「大ニュース」となり、テレビでも放映された。様々な国から集まった俳人たちの扱い方としては、日本以外では異例と言えるものであった。Kacianはブルガリアのソフィア(1836年、初めて俳句が西洋語に翻訳されたのもこの場所だった)では、ブルガリア俳句協会設立の司会を依頼された。また、バルカン半島最後の訪問地、ユーゴスラビアのベオグラードではユーゴスラビア国際文学フェスティバルで「50以上の国々から選ばれた受賞者と共に」スピーチをする機会を与えられた。

次にKacianが向かったのはニュージーランドのKatikatiであった。そこには曲がりくねった一本の道があり、道の両側に配された24個の石のひとつひとつには英語の俳句が刻まれている。訪問者はこの「俳句の道」を散策するという趣向になっている。「この俳句の道は、私たち俳句に携わる者の想いを形にしたもので、最も大切にしているものである。」Kacianの俳句は「山々が、西から絶えず流れてくる雲を細かく砕いている光景がはっきり見える場所に、ぽつんと」置かれている。

clouds seen

through clouds 雲かいま 見る雲 かいま見る

seen through

Kacianはニュージーランドからタスマニアを通して、シドニーへ至り、そこでゲスト講師に招かれ、俳句の紹介をした。シドニーのある小学校を訪れ、生徒たちと交流した時のことを回想して、次のように語っている。「書くことは力である。誰にも侵されない全く自分だけの心の空間を築き上げる力である。人生の多くは他者、つまり、文化、両親、教師、友人

の影響を受けている、とよく言われる。しかし、書くことは、これらの影響を全く受けず、自分自身だけから恩恵を受ける場所である。書くことは自分自身の部屋である、と私が言うと、生徒は皆同意して、これからそのような場所でもっと時間を過ごしたいなあ、と言った。」

旅も終わりに近づきKacianは日本を訪問した。様々な俳人と会い、都会から離れた地では英語俳句を紹介しながら、最後に筆者が住んでいる熊本を訪れた。

阿蘇地方に足をのばし、温泉につかって英気を養ったKacianはこのように書いている。「体がほぐされて、すっかり気持ちがあつろいだ。まるで温泉の神が私の中に侵入して旅の疲れをいやしてくれたかのようなようだった。」

その後、WHAの「事務局」が新しく日本に開設され、夏石番矢が中心になって継続的に運営している。WHAの「第2回世界俳句大会」<sup>9)</sup>は2003年10月3日から5日まで天理市で開催される。現在、KacianとAnakievは運営には直接関わっていないが、産声を上げたばかりのWHAという組織は設立当初の精神を今も持ち続けている。両氏の参加が大いに望まれるところだ。俳句の旅を振り返りながら、Kacianは聴衆に語りかける。「俳句は、人と人をつなぐ役目を果たしています。現に今ここで私達がそうであるように。俳句は私たちが鑑賞という共通の場へ誘います。そして、違いを恐れたり、軽蔑したりするのではなく、むしろ私たちにその違いを理解させ、共感させてくれるのです。国家的あるいは文化的な狭い考え方に引きこもるのではなく、もっと大きな解決策へと導いてくれるのが俳句なのです。」<sup>10)</sup>おそらく、恐れることなく「相違を鑑賞すること」は、文学運動としての世界俳句の定着に不可欠な鍵となるであろう。

日本の詩芸術の影響を受けた詩人である Wallace Stevens が残した数々の警句のひとつに、「詩はいん石」<sup>11)</sup>がある。この警句は、俳句詩人、出版者、そして教育者である Kacian にもあてはまるかもしれない。英語だけでなく他の外国語で作られた俳句に慣れ親しんでいる詩人や読者は Kacian のプロメテウスのような変幻自在な活動をすでに熟知している。その活動は、あたかもいん石のように燃え輝きながら水平線を越えて、可能性という新しい弧を描いているように見える。Stevens の警句のイメージは、新しい形式を生み出し、文化的な土壌を豊かにしてくれる詩の姿が地球上に現れる可能性を期待させる。詩人として、現代の俳句精神の使者として、Kacian がこれまで行ってきたことは今後も実を結び続けていくことだろう。

(Gilbert Richard 文学部外国人教師)  
(訳：堀正広、小城義也)

<http://www.iyume.com/kacian/tolmin.html> (日本語版)

<http://www.worldhaiku.net/archive/whac1ja.htm>

6) World Haiku Association のホームページ  
<http://www.worldhaiku.net/>

7) World Haiku Association Mission Statement  
<http://www.worldhaiku.net/mission.htm>

8) ごく最近の出版物は Dimitar Ankiev の作品集である。At the Tombstone (Dragan Perić によるイラスト) Red Moon Press, 2002.

9) この大会に関する詳しい情報は次のホームページを参照：

<http://www.worldhaiku.net/news.htm>

10) 国際俳句協会のホームページ：

<http://www.worldhaikuclub.org/pages/>

[linkspoetry.org.html](http://linkspoetry.org.html)

最近の英語俳句のホームページ：

<http://www.iyume.com/haikulinks.html>

11) Wallace Stevens. *Opus Postumous* (Knopf, 1980, p. 158)

-----  
1) 講演内容は次のウェブページで見ることが出来る。

<http://www.iyume.com/kacian/>

[aroundtheworld.html](http://www.iyume.com/kacian/aroundtheworld.html)

2) Red Moon Press のホームページ

<http://www.haikuworld.org/books/redmoon>

3) World Haiku Festival 2000 のホームページ

<http://www.worldhaikuclub.org/whf2000/>

[whf2000.html](http://www.worldhaikuclub.org/whf2000/whf2000.html)

4) 著名な現代俳人で俳句誌『吟遊』の創刊者であり編集責任者である。

<http://www.ne.jp/asahi/endu3/hideko3/>

5) この件に関するもっと詳しい情報は下記のウェブページで見ることが出来る。